

ISDSB2016 開催概要

文責 山根隆(名古屋大学名誉教授)

(シンポジウム全般)

第5回折構造生物国際シンポジウムは Dr. Paul Langan を委員長とする現地委員会と、169委員会との共同主催で、2016年8月7-10日、テネシー州ノックスビルで開催された。

日程

8月初旬(7-10日)の開催となったためか、止むを得ないことではあるが、他の学会(例えば The 17th International Congress on Photosynthesis Research, August 7-12, 2016 in Maastricht, Netherlands ; The 18th International Conference on Crystal Growth and Epitaxy (ICCGE-18), August 7-12, 2016 in Nagoya, Japan)との重なりが生じ、関連研究者の分散が避けられなかった。

(ISDSB2013は5月26-29日開催、参加者207名(国内168名、海外39名))

ワークショップ

シンポジウムの前日(8月6日)、2テーマで実施された。参加者は45名で好評だった。

会場

Hilton Hotelの約100名の規模の2階の会場をメインの講演会場に当てた。

休憩と展示・ポスター用に2階の1部屋(以下休憩室)を当てた。

講演会場と休憩室の間の廊下はポスター用に使用された。

少人数での打ち合わせなどは、1回のロビーが利用された。

シンポジウム資料

会場では、講演プログラム、参加者の名札、メモ用紙とボールペンが提供された。

* アブストラクト集は発行されなかった。(その後経緯は後述)

* ポスターのタイトルと発表者は、ポスターセッション終了の翌日(3日目)、ISDSB2016のホームページで公開された。

ポスター発表(30件)

ポスター発表については全て現地委員会に一任していた。

・ 休憩室で約10件、廊下で約20件の発表が行われた。

・ 講演者やタイトルなどの情報が無かったため、どこで何の発表が行われているのか全くわからなかった。また、ポスターの掲示場所が指定されていず、日本からの発表者はどこに掲示していいのかわからず戸惑っていた。

- ・ポスターサイズなどの連絡も最後までなかったのが、日本側の発表者は作成に苦労したとのコメントがあった。
- ・ポスター発表は2日目の17時から19時までの2時間で、軽食・飲み物(アルコールも含む)が提供された。
- ・ポスター・アワードが設けられ、バンケット時に3名に賞が与えられた。
- ・ポスターの掲示期間についての連絡は特になく、4日目まで掲示されているものもあった。

展示

休憩室で3件の展示が行われた。Oak Ridge National Laboratoryの展示もあった。

シンポジウム参加者

参加者は100名弱(後にホームページで公開された参加者リストにより89名)、バンケットの参加者も50名程度、日本からは分かっている範囲で中川、山口、畑、安岡、田中、玉田、井上、樋口、森本、栗原、福田、平野、矢野、山根(敬称略、太字は169委員会委員)が参加した。

*参加者数は1日目、3日目は約60名、2日目が最も多く約80名、4日目は膜タンパク質、膜のセッションが行われたが、50名弱であった。ISDSB2013でも経験したことであるが、4日目の参加者が減るのを避ける工夫が必要と思われた。

*規模はISDSB2010の2/3程度となったが、現地実行委員会としては「中性子構造生物学」を打ち出して、良くやって頂いた。

*講演者への支援は特になされなかった。

アブストラクトおよび写真

1) アブストラクト

ISDSB2016のホームページ(<https://conference.sns.gov/event/2/>)の左側カラム内のSymposium Guideをクリックすると、

<http://conference.sns.gov/event/2/picture/45.pdf>にシンポジウム・ブックレットがpdfフォーマットで掲載された。そのうちの9ページから79ページまでがプレナリー、オーラル、ポスターのアブストラクトとなっている。

2) 参加者リスト

シンポジウム・ブックレットのアブストラクトに続いて、5ページにわたり、参加者リストが添付されている。89名の参加であった。

3) 写真

ISDSB2016のホームページ(<https://conference.sns.gov/event/2/>)の左側カラム内のSymposium Picturesをクリックすると

<https://conference.sns.gov/event/2/picture/44.pdf>でグループ写真などが掲載されている。

(Proceedings)

安岡委員と Dr. Paul Langan 現地委員会委員長との事前の打ち合わせでは、Proceedings は今回は発行されないという印象であったが、オープニングで Dr. Paul Langan が、Proceedings を IUCr 関連の Journal から出版する計画があると報告された。

(反省)

- * 海外の開催では、現地委員会の意向が尊重され、特に創薬のセッションでは 169 委員会の産業界会員の意向が反映されたプログラムを組むのが難しいと思われた。
- * 開催中にアブストラクト集がなかったので、個人的に講演内容を理解するのに苦労した。
- * 開催中に参加者リストも提供されなかった。
- * 参加登録費の領収証も発行されなかった。
- * シンポジウムプログラムは、8 月 1 日に最終版ができるまでずれ込んだ。
- * ポスターについての情報は、シンポジウム 2 日目まで与えられなかった。
- * ポスターのタイトルと発表者は、何らかの形で公表されないと困る関係者がいたため、ISDSB2016 のホームページへの掲載を要望した。これにより、ポスター発表者が参加・発表を行ったことが周知された。
- * 4 日目まで掲示されていたポスターも多数あり、ポスターセッション以外の休憩時などに、ポスターの前での議論が行われていた。日本で開催時、廊下等での掲示が可能であれば、会期中の掲示を依頼しておくのもいいかも知れない。
- * 昼食 ; 1 日目の昼食は、ランチボックスが参加者に提供された。2-4 日目の昼食時間は 1 時間 30 分とられていた。ホテルから徒歩 5 分の所に種々のレストランが集まったマーケットスクエアがあり、昼食をとるには便利であった。